

飛騨 高原川・沢上谷 そうれだに

日程：2015年 7月 28日

メンバー：矢澤（L）、金田

報告：金田

「今年はバカ暑いので沢に行こうか。」と矢澤リーダーが言ってきた。「普通の山歩きがいいけど・・・」と答えると、「この沢は普通に歩けるから」と言われ、ガイドブックのコピーを渡された。

ここ数年、ロープやハーネスを使用した山行はほとんどしていない。年齢を重ねたせいか、そういう登山が怖く感じるようになってきていた。また高い山もしんどくなってきていて、自分としては里山歩き程度でよかったのだが・・・。「この沢は標高差 300 メートル登るだけだから。」と返されてしまった。

結局、奥飛騨の沢上谷へ行くことになった。「沢上谷」と書いて「そうれだに」と読むようだ。高原川の支沢で、その高原川を上流に遡ると蒲田川となり、その源流は槍ヶ岳である。そして支沢である沢上谷の源流の山はどこかという、実は全くわからない。

新城市から奥飛騨は遠い。飯田山本 I.C. から中央道に入り、そして長野道の松本 I.C. から国道に下り上高地に向かう。鎌トンネルの手前から安房トンネルに入り奥飛騨温泉郷に至る。ここから「栢尾」の信号を右折すると新穂高ロープウェイである。今回の沢上谷はこの信号を左折し、国道をしばらく進んだ後、林道に入っていくと入渓点があると書いてある。長野県は昨夜は雨だったようで、早朝の道路はまだ濡れていた。リーダーも運転しながら、水量を気にしているようだった。ガイドブックに載っていた入渓点と思われる橋を過ぎ、林道のやや広い路肩に車を停めた。ガイドブックには簡単に書いてあるのだが、ホントにここでイイのかと不安が湧いてくるような所だった。空模様もまだイマイチだったが、リーダーはすぐに身支度にかかっていた。「ハーネス着けて行く？」と聞くと、「当たり前」と一蹴された。橋まで歩いて戻り沢に入った。踏み跡が付いていたので間違っていないのだろう。水量もそれほど多くはないようだが、普段のこの沢を知らないのでも何ともいえない。ただ水は少し濁っていた。ゴロゴロした石の河原だった。初めからジャバジャバと水の中を歩いた。やがて沢はナメ床が続くようになった。そして水の濁りもなくなっていた。清流だった。沢タビのヒタヒタ感が何とも気持ちがいい。空は青空が広がりつつあった。大きな滝もなく本当に普通の山登りと変わらない。おまけに水に浸かっているので、真夏にもかかわらず案外涼しい。この後大きな滝が出てくるはずだが、まだかな？

リーダーが突然大きな声を出すので顔を上げた。その時、木々の合間から壁を流れ落ちる滝が見えた。リーダーも「あれだ！あれだ！」と言いながら速足で木々を避けて進む。高さ 30 メートル程の滝だった。きょうのハイライト、蓑谷（みのたに）大滝である。



滝全体が大きな壁になっていて、そこを水が流れ落ちるのでかなり豪快である。こんな景色が見られるから止められない。滝を背にしてお互いに写真を撮り合い30分程時間を費やした。

この滝の右側を巻くのだが、急な斜面に踏み跡が付いていた。かなり登ると登山道のようなはっきりとした山道に出た。それを辿りしばらく進むとロープが付いた木があった。ここから沢に戻るようだが急である。ガイドブックに初心者が怖がるようならロープ確保するようにと記してあったが、なるほどなと納得するほどの急斜面だった。

ただ樹林帯の中なので高度感はそれ程感じることなく、木を掴んで下りて行けば大丈夫だと思った。

沢に降り立ち上流を見るとナメ床がずっと続いていた。滝の落ち口を見てから上流に向かい再びヒタヒタと歩いた。やがて二股になっており右のナメ滝を登った。きょう初めての滝登りだった。左岸にロープが一本垂れていてそれを頼りに登った。そこを登り切ると再びナメ床が続いていた。ずっと足を沢に浸して歩いて来ていたので、足先が冷たくなっていた。やがて前方に橋が見えてきて、そこが終了点だった。

入渓から3時間の沢旅だった。林道を1時間30分歩き車に戻った。林道は真夏の暑さだった。車のアプローチに片道5時間かけて3時間の沢遡行、何とも効率は悪かったが蓑谷大滝は一見の価値ある滝だった。